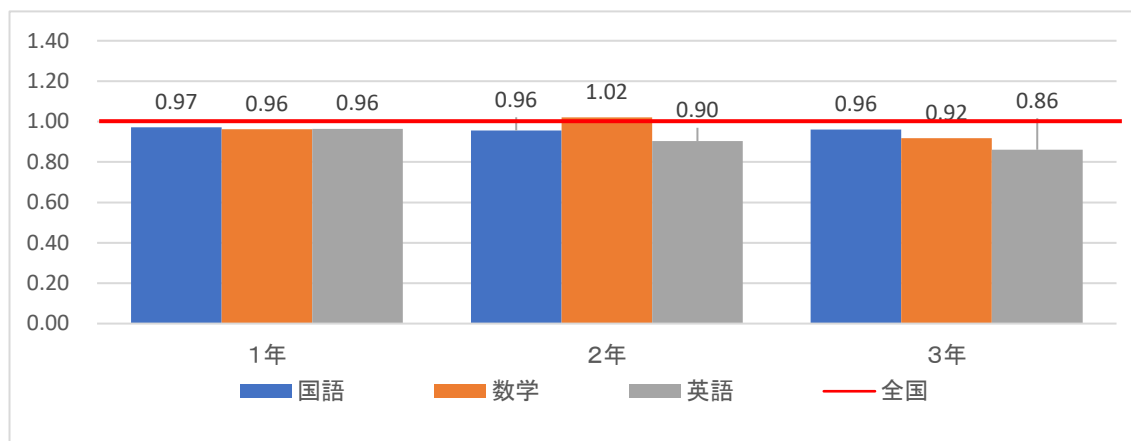


令和6年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第二中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生は寝屋川市学習到達度調査

中学3年生は全国学力・学習状況調査（英語のみ寝屋川市学習到達度調査の結果）

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	1年生では「我が国の言語文化に関する事項」の領域で、2年生では「書くこと」領域でそれぞれ課題が見られた。今後、課題改善のために、教科会を充実する中で、学年間での教材や授業実践の共有化を進めていく。
	数学	1年生では、「百分率」が大きな課題であり、2年生では、全国平均を上回っていたものの、活用の分野において課題が見られた。1、2年生とも定着している基礎的な計算力を土台に、今後、活用問題への取組を強化していく。
	英語	各学年とも、基礎的な内容の定着に課題が見られた。毎回の授業で単語テストを実施し、英語の最も重要な基礎単語の定着を学校全体で進めていく。
全国学力・学習状況調査	国語	記述式問題に課題があり、質問紙からも文章で表現して解答することに苦手意識を持つ生徒が多いことがわかった。毎時間の振り返りや単元内での表現活動を充実させ、自分の意見や思いを書く活動を継続的に進めていく。
	数学	「数と式」領域や「思考力・判断力・表現力」に大きく課題が見られた。今後は、計算力の向上を基本とし、その中で途中式を書かせることで、思考を可視化し、考える力を育てていく。
	質問紙	「学校の授業は楽しい。」という項目では、肯定的回答が全国平均を上回り、昨年度よりも上昇している。生徒に対して、勉強が自分の進路を切り拓くために必要であることを意識させながら授業に取り組んでいる成果であると考えられる。一方で、家庭学習を「全く、ほとんどしない」と回答した生徒の割合が高い。家庭学習へ取り組む意識づけや方法について、校内で連携しながら推進していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

- ・寝屋川方式の学習を基に、毎回の授業に対して「真心の授業」を実践する。
- ・校区学力部会で各種学力テスト及び質問紙等の分析を行い、結果と課題を共有する。
- ・分析結果を利用した課題克服の手立てを共有し、主体的な学習者の育成をめざす。
- ・校区3校の公開授業を実施し、9年間のカリキュラムに基づく教科指導の充実を図る。
- ・今年度は自己調整力の向上を校区の課題として、合同研修の実施や取組の交流を行う。

【学 校】

「真心の授業」を合言葉に、生徒と生徒、生徒と教員をつなぐ授業に取り組んでいる。全授業でICT機器を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っている。

- ・数学科について➡2、3年生は、習熟度別授業を実施。1年生は少人数教育支援人材や学力向上支援人材をTTとして支援。
- ・英語科について➡2年生及び3年生は習熟度別授業を実施。